

なるが、県の針路を選択する極めて重要な選挙」と述べ、公正な選挙活動と呼びかけた。出席者は選挙運動用自動車や選挙郵便物、政見放送などの各種手続きを確認した。

川勝氏再出馬求め 市民団体署名活動

静岡

市民団体の「南アルプスとリニアを考える市民ネットワーク静岡」と「大井川の水を守る62万人運動」は22日、辞職届を出した川勝平太知事に知事選への再出馬を求める署名活動を静岡市葵区の青葉シンボルロードで行った。

両団体は、リニア中央新幹線建設工事に伴う大井川の水問題に関する川勝知事のJR東海や国への厳しい姿勢を評価。既に立候補を表明している2氏について「リニアと環境保全の両立」と言っているが、具体策が

示されていない。(政策を)評価できない」として、川勝知事の再出馬を求めることにした。

関係者が22日午前川勝知事と面会して署名活動の実施を報告し、立候補を求めた。川勝知事は自身への評価に感謝を伝えたものの、出馬には否定的だったという。

署名は30日までインターネットでも受け付ける。集まった署名は川勝知事に届ける方針。



川勝平太知事の知事選への再出馬を求め、署名を集める市民団体関係者
22日午後、静岡市葵区

2024年4月23日
静岡新聞

「川勝県政 継続を」

短期決戦
知事選
5・26

市民団体が出馬要請

リニア建設に反対する市民団体などは22日、辞意を表明した川勝平太知事に知事選への出馬を要請したと明らかにした。固辞されたという。

出馬要請したのは、市民団体「大井川の水を守る62万人運動」や「南アルプスとリニアを考える市民ネットワーク静岡」のメンバーら。22日、県庁に川勝知事を訪ねて出馬を打診したが、「(リニア政策への)評価はありがたいが、出馬はとんでもない」と

断られたという。メンバー6人はこの日、静岡市役所静岡庁舎前で「リニアより命の水を」と書かれた横断幕を掲げ「南アルプスの自然と大井川の水を守るため、川勝県政の継続を」と訴えた。

市民ネットワーク静岡の共同代表で静岡市議の松谷清氏は取材に「リニア工事のためなら環境破壊は許されるという古い価値観に、川勝県政は一定の歯止めをかけた」と話

2024年4月23日
中日新聞

リニア政策支持、知事は固辞

した。インターネットや街頭で30日まで出馬要請の署名を募り、改めて知事に出馬を求める。(飯盛結衣)



川勝平太知事に再出馬を求める署名活動をする市民団体のメンバーら＝22日、静岡市葵区で

リニア不安視 民意は 大村・鈴木両氏は「推進」

5月9日告示、26日投開票の知事選は、元副知事の大村慎一氏(60)と前浜松市長の鈴木康友氏(66)が支援拡大の動きを本格化し始めた。一方、両氏とも「リニア中央新幹線推進」を掲げるなど、水資源や自然環境の保全を訴える声の受け皿が見あたらない。開発優先や原発再稼働に不安を抱く民意が、行き場を失うおそれもある。

(大海英史、田中美保、青山祥子、南島信也)

短期決戦



24知事選

「南アルプスとリニアク静岡」などの市民団体を考える市民ネットワークは22日、川勝平太知事に



川勝平太知事の再出馬を求める署名活動をする市民団体メンバー＝22日、静岡市葵区

もう一度立候補するように求める署名活動を静岡市内で始めた。共同代表を務める松谷清・静岡市議らが同日、知事に会って立候補要請と署名活動を伝え、立候補は否定したという。

メンバーらは、大村、鈴木両氏が「大井川の水源や南アルプスの環境保全を前提としつつ、「推進」を強調することに危機感を抱く。松谷氏は「2人とも川勝知事の姿勢を引き継がないとも発言しており、評価できない」と話す。

複数の市民団体が名を連ね、リニア建設反対の意見があれば、建設の前提として水資源や生態系を守るよう求める意見など、幅がある。インターネットも含めて30日まで

署名を募り、知事に渡す予定だ。浜岡原発については、知事は「再稼働できる状

況にない」との認識を示してきた。原子力規制委員会の審査が続ぎ、合格しても対策工事が続く見

通しなのに加え、使用済み核燃料を貯蔵するプールに限りがあることを課題にあげている。

一方、大村氏は「安全性の確保が重要で、そこから議論をスタート」、鈴木氏は「規制委の新基準による判断を待って決める」としており、再稼働への姿勢を明確にはしていない。

川勝知事の再出馬求め 市民団体が署名活動を開始「国や JR と対峙し命の水や環境守ってくれた」【静岡県知事選】



5月9日告示の静岡県知事選をめぐり、静岡県内の市民団体らが、辞表を提出した川勝平太知事の再出馬を求める署名活動を始めました。

4月22日、静岡市内で署名活動を行ったのは、市民団体「南アルプスとリニアを考える市民ネットワーク静岡」と大井川流域の住民らでつくる団体「大井川の命の水を守る62万人運動」のメンバーら約10人です。



静岡県知事選をめぐっては、現職の川勝平太知事が辞職を表明し、5月9日告示、5月26日投開票で知事選が行われることが決まっています。リニア工事については、大井川の水量や南アルプスの希少な動植物などへの影響が懸念されていますが、この団体らは、「川勝知事は国やJRと対峙して、県民にとっての命の水や環境を守ってくれた。その姿勢をとても評価している」とこれまでの川勝知事の姿勢を評価してきました。



市民団体「南アルプスとリニアを考える市民ネットワーク静岡」の松谷清共同代表によると、22日午前川勝知事を訪ね、署名活動を行うことを報告したところ、再出馬については否定的な態度だったものの、「評価して頂けてありがたい」との反応だったということです。

署名は目標数を定めずに、4月30日までインターネットや街頭で集め、その後、川勝知事に直接渡す予定です。

4氏リニア巡り回答

市民団体質問状 ウェブ公開へ

市民団体「リニアを争点にする会」は22日、知事選の立候補者に提出していたリニア中央新幹線事業に関する公開質問状について、返信を受けた4氏の回答内容を明らかにした。近日中に「大井川の水を守る62万人運動」のウェブサイトに掲載する。

各候補に11項目の質問状を送付した。21日までに森大介(55)、鈴木康友(66)、大村慎一(60)、浜中都已(62)の4氏から回答を得た。

県専門部会の継続をどのように考えるかとの質問に、森氏は専門部会で科学的工学的議論を行ってきたことから「功績は大きい」、鈴木氏は「これまでのように最大限参考にする」とし、いずれも継続の意向を示した。大村氏は国や静岡市の

専門家会合との関係性が分りにくいとし「(知事)就任後に評価し、判断する」と回答した。浜中氏は11項目の質問全体に対し「特別顧問として川勝平太前知事を迎え、リニア問題を今ままで通り継続してもらう要請をする」と答えた。

リニア県専門部会の継続是非

知事選候補、割れる



26日投開票の知事選で、川勝平太前知事のもとでリニア中央新幹線静岡工区の水資源や環境保全を議論してきた県専門部会について、主な候補は「継続」と「就任後判断」で意見が分かれることがわかった。

川勝氏のリニアに対する姿勢を評価する市民団体「リニアを争点にする会」がリニアについて各候補に公開質問状を送り、4候補が回答した結

果を22日、発表した。

専門部会について共産党県委員長森大介氏(55)は「功績は大きい」として「継続させ、きちんと議論を進めるべきだ」と答えた。前浜松市長の鈴木康友氏(66)は「これまでのように最大限に参考にしていく」として「継続し尊重していくべきだ」と回答した。

一方、元副知事の大村慎一氏(60)は国や静岡市にも議論の場があり、関係がわかりにくいとの指摘もあるとして「就任後に評価し、判断」とした。浜中都已氏(62)はリニアについて「特別顧問として川勝氏を迎え、いまままでおろし継続」と答

え、着工に反対する考えを示した。(大海英史)

温暖化防止対策の推進強化を求める要望書を提出 (緑の党グリーンズジャパン)



静岡新聞
2024年5月25日

「温暖化防止対策」
静岡市に強化要望

緑の党本部
緑の党グリーンズジャ
ン県本部(松谷清、高橋隆
子共同代表)は24日、地球

温暖化防止対策の推進強化
を求める要望書を静岡市に
提出した。

要望書には国際的責任を
意識した脱炭素の取り組み
についての基本方針の明確
化や地域の徹底的な省エネ
ルギー・脱炭素化の推進な
ど6項目を記した。気候変
動により加速化する風水害
に適応する市独自の対策の
予算を優先的につけること
や、気候変動の影響を受け
やすい社会的弱者らへの支
援などを求めた。政策決定
の際に市民の声を取り入れ
ることも提案した。佐藤暢
久GX推進課長が対応し
た。

山田久美子事務局長は
「地方から積極的に動いて
ほしい」と訴えた。県や県内
の他自治体にも同様の要望
書を提出する方針という。

要望書を提出する緑の党グリー
ンズジャパン県本部のメンバー
＝静岡市役所静岡庁舎

環境政策の継続 鈴木知事に要望 (リニアを争点にする会)

静岡新聞 2024年6月7日

環境政策の継続
鈴木知事に要望

リニア事業で市民団体

市民団体「リニアを争点
にする会」は6日、鈴木康友
知事と県中央新幹線対策本
部に対し、「環境政策の継続
を求める要望書」を提出し
た。同会のメンバーが県庁
を訪れ、県くらし・環境部の
栗田哲良参事に手渡した。

同会が知事選立候補者に
提出したリニア中央新幹線
事業に関する公開質問状
で、鈴木知事は県専門部会
について「継続し尊重して
いくべき」と回答した。環
境に変化が確認されること
に適宜対策を講じる「順応
的管理」に関しては、事前
調査を複数年かけて行うこ
とが「必要であろうと考え
る」と答えた。

要望書では、これらを踏
まえた環境政策を通じ、大
井川の水資源と南アルプス
の生態系の保全を求めた。
JR東海に順応的管理に必
要な調査を十分に行うよう
求めることも要望した。

5月の知事選で、鈴木知
事はリニア工事の課題を明
らかにした川勝平太前知事
の「功績」を高く評価し、
国、JR東海、流域市町と
連携して「課題を乗り越え
ていく」と訴えていた。